

---

---

<埼玉発世界行き奨学生レポート NO. 2>

こんにちは。平成 23 年度「埼玉発世界行き」奨学生で昨年度中国の清華大学に留学しておりました、王和月です。今回は私の留学していた清華大学のある、中国の首都北京についてご紹介しようと思います。

北京市は天安門や故宮、人民大会堂もあり、大国中国を統括する政治の中心として強い役割を担っています。北の京と書いて北京ですが、緯度は日本の岩手県とほぼ同じくらいの位置にあります。

北京の地図を見ると、天安門と故宮を中心として周りに大きな道路が輪のように囲んでいて、それが波紋のように外側へ6つ存在しています。また、縦横に直線の道路が張り巡らされています。

日本史で、奈良の都は中国の長安を似せて造られたと私たちは学んでいます。この北京もまた、中国の古都の一つとして、縦横区画のはっきりした構図で長安や西安と類似した道路整備がされています。北京でタクシーに乗ると、運転手に「それは北西に進めばあるのかい？」と尋ねられたりしますが、北京はこうした区画規則のおかげでどちらが北か南か、素人でも容易に把握できるのが大きなメリットだと思います。

前回のベルリン紹介の回では、タピオカドリンクブームが起きているとのことでしたが、北京ではタピオカドリンクのみならず、さまざまな“小吃（シャオチー）”と呼ばれる軽食がいたるところで屋台販売されています。衛生面の心配は少しありますが、値段もレストランよりも圧倒的に安いですし、味も安定して美味しいです。

日本人にとっては珍しい食べ物も多くあります。現地の友人からアドバイスをもらうなど、安全にはくれぐれもご注意の上、楽しんでみてください。予想外の美味しい出会いがあるかもしれません！ちなみに、私は羊肉串（ヤンロウツァン）と呼ばれるラム肉の串焼きが大好きでした。

食べ物の魅力は語りつくせませんが、私たちが普段から中華料理を親しんでいることもあり、ハードルはそこまで高くありません。ぜひ、北京にいらして挑戦してみてください。

上智大学 4 年 王 和月（平成 23 年度埼玉発世界行き「協定留学コース」奨学生）

---

---